

刀 林

題字 故前田和二郎名誉教授
発行所 東京都新宿区信濃町 35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 北島政樹

外科学教室 100 周年に向けて



国際医療福祉大学
副理事長・名誉学長
慶應義塾大学 名誉教授
北島 政樹 (45回)

2020年のオリンピッククイヤーには外科学教室が100周年を迎える。私が卒業した1966年の2年前の1964年が東京オリンピックであり、通学時に信濃町駅で行き交う外国人選手を見て、興奮を覚えたことを思い出す。外科学教室100年の歴史と51年前のオリンピックを考

える時、経過の早さにただ驚かされる。時の経つ早さを示す言葉にラテン語の「Tempus Fugit」(時は空を飛ぶ)という成句がある。人生の限られた時間を

無為に過ごすべきでないという意味である。Tempus Fugitは慶應義塾とも関係の深い成句であることは云うまでもない。すなわち、慶應義塾創立50周年を祝って、記念事業として、今日も三田山上に聳え立つゴシック式煉瓦造りの図書館が1912年に竣工された。

当時の塾長であられたフランス文学者佐藤朔先生が1980年の皇居での歌会初めに「桜が咲く日の学園の時計台、ラテン文字のいまもかがやく」と詠まれた。図書館の正面の時計台の文字盤には数字の代わり

に十一のラテン文字が配されている。Tempus Fugitの十一文字である。そして十二時の場所には砂時計の絵が入っている。このような慶應義塾の歴史と共に慶應義塾大学医学部、また我が外科学教室もTempus Fugitを経験してきたのである。

1917年、北里柴三郎博士を初代医学部長として医学部が新設され、その3年後の1920年6月7日に済生会芝病院(現済生会

外科学教室開設100周年 記念事業発足



慶應義塾大学医学部外科
(一般・消化器) 教授
外科学教室主任
北川 雄光 (65回)

中央病院) 外科医長であった茂木蔵之介先生が初代教授に就任され、外科学教室が8人体制で発足した。戦後の1947年の(昭和22年)、整形外科より外科学教授に転任された前田和二郎教授の先見の明により現在の一教室性の基盤となる研究分野の分担と担当者配置された。すなわち島田信勝教授が一般外科・腹部外科、井上雄講師が心臓外科、石川七郎助教授が呼吸器外科、そして工藤達之助教授が頭部外科を担当することとなった。

現在の小児外科は島田教授の代から一般消化器外科に所属していたが小生が医学部長時代の2004年に森川康英助教授が初代教授となり独立した。同時に呼吸器・循環器内科から呼吸器内科も独立した。その後小児外科、呼吸器内科の発展も記憶に新しい。

2020年の100年の間に1931年茂木先生が第32回日本外科学会を主宰、1951年、第51回を前田和二郎先生、1966年、第66回を島田信勝先生、1987年、第87回を阿部令彦先生そして2000年、第100回を小生が担当した。さらに節目の2020年、外科学教室100周年には北川雄光教授が日本外科学会会長として理事会、定時社員総会で承認された。

このように輝かしい歴史と伝統を次の100年に向かっ

て一外科学教室という他大学に見られない特色を生かし、全診療の英知を結集して内外に向けてさらに発展することを期待している。

2020年に慶應義塾大学医学部外科学教室は、開設100周年を迎えます。外科学教室では、かねてより刀林会の先生方とご相談の上、2020年に向けて外科学教室開設100周年記念事業を行うことを計画して参りました。この度、第117回日本外科学会定期学術集會会期中の4月28日、同学術集會会場の横浜にて100周年記念事業の概要を教室・同窓会関係の皆様にお伝えし、ご支援をお願いするためのキックオフ会議を執り行いました。

学術集會会期中の大変お忙しい中を大変多くの皆様にお集まりいただきましたこと、この機会をお借りしてあらためまして厚く御礼を申し上げます。

キックオフ会議では、まず刀林会理事長北島政樹先生(45回)に開会の辞をお願いいたしました。また、今回の第117回日本外科学会定期学術集會会期中4月26日に行われました定時社員総会にて、2020年の第120回日本外科学会

定期学術集會会頭に私が選出されました。キックオフ会議における私の教室主任としてのご挨拶の冒頭に皆様にご報告と御礼を申し上げることができましたことは大変ありがたく光栄なことと存じております。キックオフ会議では、多くの皆様からお祝いや励ましのお言葉を賜りましたこと心から御礼を申し上げます。



慶應義塾大学医学部外科学教室百周年キックオフミーティング

済生会神奈川県病院 院長就任



長島 敦 (64回相当)

2016年10月1日付けで済生会神奈川県病院の院長に就任いたしました。当院は全国済生会の第1号病院として1913年に開設されました。1965年に神奈川県より交通救急センターを委託され、以後日本の外傷外科・救急外科を牽引してまいりました。OBには多くの錚々たる顔ぶれの刀林会の先輩方がいらっしゃいます。私は1991年にチーフ出張として赴任しましたが、当時は院長山本修三先生、外科部長奥澤星二郎先生、故吉井宏先生は米国留学中でした。以後2007年まで、高度急性期病院として地域医療に貢献してまいりました。

2007年以降は済生会横浜市東部病院の開院に伴い、急性期部門は東部病院に移設し、慢性期と回復期中心の病院(199床)として運営してまいりました。今年2017年4月に徒歩3分の場所に位置する横浜通信病院(93床)を譲受し、済生会東神奈川リハビリテーション病院として回復期に特化した病院を開院することになりました。そこで当院は、回復期を新病院に移設し、慢性期だけではなく急性期医療にも取り組むことといたしました。今まで10年間慢性期医療に慣れた職員に対し、急性期医療を開始することへの賛同を得るのはなかなか困難です。丁寧に職員との対話を続け、院長が率先垂範することによって、内科疾患を中心とした地域に直結した救急医療を行う所存です。そして当院・済生会横浜市東部病院・済生会東神奈川リハビリテーション病院間で機能分担による連携をとり、地域の医療機関とともに地域完結型医療に取り組むたいと考えております。地域医療構想の中では、東部病院が高度急性期から急性期、当院が急性期から回復期、リハビリ病院が回復期を担当することになります。



また今後は積極的に地域に進出し、行政・医師会・在宅医療関係職種とともに地域包括ケアシステムを構築しようと考えています。地域のニーズに応え、地域とともに成長する病院を目指します。刀林会の皆様におかれましては益々のご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。

浜松医科大学医学部外科学第二講座 主任教授就任



竹内 裕也 (71回)

このたび平成二十九年三月一日付をもちまして国立大学法人 浜松医科大学医学部外科学第二講座(消化器・血管外科学分野)主任教授を拝命いたしました。71

回生 竹内裕也でございます。私は平成四年に慶應義塾大学医学部を卒業後、慶應義塾大学病院や関連施設を経て、平成十八年より慶應

義塾大学外科学教室(一般・消化器)スタッフとして以後11年間大学病院で臨床研究、教育の研鑽を積む貴重な機会を頂きました。これまでご指導とご厚情を賜

りました刀林会理事長北島政樹名誉教授、北川雄光教授をはじめ、刀林会の諸先輩方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。浜松医科大学医学部外科学第二講座は初代教授 坂口周吉先生、二代目 馬場正三先生、三代目 中村達先生(前浜松医科大学長)、四代目 今野弘之先生(現浜松医科大学長)そして五代目が私と国立大学にありながら五代続けて慶大外科より教授を輩出した教室であります。先代教授の方々のご努力により、上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科、血管外科の4つの部門からなる慶大一般・消化器外科に非常によく似た素晴らしい教室がすでにできあがっており、各部門が密に連携しながら専門とする疾患の診療

にあたってまいります。今回このような教室の一員に加えて頂きましたことを大変嬉しく思っております。私は上部消化管外科を専門としておりますが、浜松医科大学におきましても消化器癌に対する低侵襲外科治療と集学的治療を進めていくと同時に、難治がんに対する高難度手術も積極的に挑戦してまいります。また「地域と世界に貢献する浜松医科大学外科」「病気を治すだけでなく患者さんの心に寄り添う医療」を目指してさらに研鑽を積み、先達が築き上げた外科学の素晴らしさを後進に伝えられるよう精進してまいります。まだまだ至らぬ若輩でございますので、今後とも刀林会諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

弘前大学 医学部付属病院 小児外科診療教授 就任



平林 健 (67回)

この度、慶應義塾大学小児外科黒田教授、東海大学小児外科上野教授のご高配、並びに、弘前大学消化器外科学講座・小児外科学

講座袴田教授、小児科学講座伊藤教授のご尽力により、弘前大学小児外科に赴任した平林です。(手続きの問題で、診療教授の辞令

は遅れています) 3月31日、そろそろ校のほころびかけた湘南の伊勢原(東海大学医学部)から、まだ雪の残る弘前(弘前大

学医学部)に移動いたしました。ようやく、この原稿を書いている5月3日には雪は溶け、桜の満開は過ぎました。弘前大学医学部は、1944年青森医学専門学校として開校し、旧制弘前医科大学を経て、現在に至っております。弘前大学医学部の第2外科学教室(消化器外科学講座・小児外科学講座)は、昭和24年に榎哲夫先生が開講され、小児外科は、平成9年に棟方博文名誉教授が、小児外科教授に就任され発足し、現在は 袴田教授が、講座教授を兼任されております。

当小児外科グループは、昨年度は、前任の今は亡き須貝道博先生の体調不良により、指導医不在の状態でしたが、診療圏は、青森県のみならず、青函海峡を渡った北海道南部まで広がっております。今後は、刀林会の諸先輩方に教わった小児外科の知識・技術を基本として、青森県・北海道南部の小児外科診療の拡充、弘前大学小児外科の発展に尽くしていきたいと考えます。弘前大学小児外科の運営・若手育成において、刀林会の諸先輩方のご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。また、弘前にお越しの際(できれば、4月末の桜の季節が最高ですが)は、是非、当小児外科にお寄りいただければ幸いです。

国際医療福祉大学医学部 消化器外科学教室 主任教授就任



板野 理 (71回)

平成29年4月1日付にて、国際医療福祉大学医学部消化器外科学主任教授を拝命いたしました。就任にあたり、多大なるご支援を受け賜りました刀林会の諸先生方、特に国際医療福祉大学副理事長北島政樹先生、慶應義塾大学一般・消化器外科教授北川雄光先生に厚く御礼申し上げます。

私は平成4年に慶應義塾大学医学部を卒業し、外科学教室に入局いたしました。慶應義塾大学病院で一年間の研修の後、芳賀赤十字病院、国家公務員共済組合連合会立川病院に出向しました。平成6年5月より慶應義塾大学医学部外科学助手一般・消化器外科に帰室し、胆道班に配属されました。ポストチーフ出張で再び立川病院に出張した後、平成13年1月より米国のCornell University Strang Cancer Prevention Centerに留学し、世界レベルの癌予防基礎研究を学ぶ機会をいただきました。平成15年10月に帰国し永寿総合病院にて勤務後、平成

22年6月により慶應義塾大学外科学教室助教として肝胆膵・移植班のスタッフとして帰室しました。帰室後は、平成24年10月より専任講師、平成28年9月より准教授を拝命し、肝胆膵外科における内視鏡手術の確立、癌集学的治療に対して臨床研究および基礎研究に努めてまいりました。

国際医療福祉大学は平成7年に開学した医療系総合大学ですが、本年4月、成田市と共同で提案した「国際医療学園都市構想」を構成する国家戦略特区事業の一つとして、成田キャンパスに医学部を新設しまし

た。今回その初めての消化器外科教室の設立を任せられることになり、やりがいと共に責任の重さを痛切に感じております。「グローバルに活躍する医師を育てる」という開設の理念を実践すべく、国内外の若手医師が集う海外への窓口のよう

な教室を作るよう尽力する所存です。しかし、ゼロからの立ち上げは様々な苦難に遭遇することと覚悟しております。今後とも刀林会の皆様の暖かいご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年4月1日より、浜松医科大学医学部外科学第二講座主任教授にご栄転された竹内裕也先生の後任として、慶應義塾大学外科学教室幹事を拝命いたしました。尾原秀明でございます。

私は1993年に塾医学部を卒業後、外科学教室に入室いたしました。一般・消化器外科の研修、関連病院出向と海外留学を経て、北島政樹教授(45回、名誉教授)の御高配で2005年に帰室し、血管班を担当してしております。帰室当初は右も左もわからない一番の若手スタッフでしたが、2007年4月に北川雄光先生(65回)が外科学教室(一般・消化器)教授に就任され、2008年2月には医局が「別館」から「臨床研究棟」へ引越したこともあり、本年2017年は慶應義塾大学医学部開設100年記念と、様々な重要な節目を経験させていただきながら、この度、身に余る大

任を仰せつかりました。病院機能の要である感染制御センターと医療安全対策センターでの経験を活かして教室の円滑な運営に努力して参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2004年より初期臨床研修制度が発足し、10年後の2014年には新専門医制度に向けた日本専門医機構の発足など、当教室の外科学教育システムも少なからず影響を受けているなか、関連施設ならびに刀林会会員の皆様方の多大なるご協力とご支援により、全国でもトップクラスの外科学教室入局者を毎年迎えることができっております。未

来の本学外科学教室を背負って立つ彼らが思う存分能力を発揮できる、診療、教育、研究の環境をさらに充実させていけるようお役に立てればと考えております。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には外科学教室100年という大きな節目を迎えることとなります。慶應義塾大学医学部外科学教室100周年記念事業に向け、100周年記念事業

運営委員会(運営委員長北川雄光教授)が発足いたしました。外科学教室80周年記念事業を大成功裏に導かれた刀林会理事長 北島政樹名誉教授にご指導を賜りながら、私も運営委員の一員として事業に携わらせていただき、刀林会員の皆様とともに気運を高めて参りたいと存じます。さらに、北川雄光教授が日本外科学会定期学術集会の次々期副会頭に選出され、2020年第120回日本外科学会定期学術集会を、北島政樹教授が主催された2000年第100回日本外科学会定期学術集会以来、20年ぶりに当教室が主催する予定です。次世代への新たな100年に向け、素晴らしい2020年を迎えることができそうです。現教室員一同全力で取り組んで参りますので、刀林会会員の皆様におかれましては、引き続きご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

センターと医療安全対策セ

ンターでの経験を活かして

教室の円滑な運営に努力し

て参りますので、どうぞ宜

しくお願い申し上げます。

2004年より初期臨床

研修制度が発足し、10年後

の2014年には新専門医

制度に向けた日本専門医機

構の発足など、当教室の外

科医教育システムも少な

からず影響を受けているな

か、関連施設ならびに刀林

会会員の皆様方の多大なる

ご協力とご支援により、全

国でもトップクラスの外科

学教室入局者を毎年迎える

ことができっております。未

来の本学外科学教室を背

負って立つ彼らが思う存分

能力を発揮できる、診療、

教育、研究の環境をさらに

充実させていけるようお役

に立てればと考えておりま

す。

東京オリンピック・パラ

リンピックが開催される

2020年には外科学教室

100年という大きな節目

を迎えることとなります。

慶應義塾大学医学部外科学

教室100周年記念事業に

向け、100周年記念事業

運営委員会(運営委員長

北川雄光教授)が発足いた

しました。外科学教室80周

年記念事業を大成功裏に導

かれた刀林会理事長 北島

政樹名誉教授にご指導を賜

りながら、私も運営委員の

一員として事業に携わらせ

ていただき、刀林会員の皆

様とともに気運を高めて参

りたいと存じます。さらに、

北川雄光教授が日本外科学

会定期学術集会の次々期副

会頭に選出され、2020

年第120回日本外科学会

定期学術集会を、北島政樹

教授が主催された2000

年第100回日本外科学会

定期学術集会以来、20年ぶ

りに当教室が主催する予定

です。次世代への新たな

100年に向け、素晴らしい

2020年を迎えること

ができますよう、現教室員

一同全力で取り組んで参り

ますので、刀林会会員の皆

様におかれましては、引き

続きご指導ご支援のほど何

卒よろしくお願い申し上げ

ます。

教室幹事を拝命して



慶應義塾大学医学部
外科(一般・消化器)

尾原 秀明 (72回)

た。今回その初めての消化器外科教室の設立を任せられることになり、やりがいと共に責任の重さを痛切に感じております。「グローバルに活躍する医師を育てる」という開設の理念を実践すべく、国内外の若手医師が集う海外への窓口のよう

な教室を作るよう尽力する所存です。しかし、ゼロからの立ち上げは様々な苦難に遭遇することと覚悟しております。今後とも刀林会の皆様の暖かいご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年4月1日より、浜松医科大学医学部外科学第二講座主任教授にご栄転された竹内裕也先生の後任として、慶應義塾大学外科学教室幹事を拝命いたしました。尾原秀明でございます。

私は1993年に塾医学部を卒業後、外科学教室に入室いたしました。一般・消化器外科の研修、関連病院出向と海外留学を経て、北島政樹教授(45回、名誉教授)の御高配で2005年に帰室し、血管班を担当してしております。帰室当初は右も左もわからない一番の若手スタッフでしたが、2007年4月に北川雄光先生(65回)が外科学教室(一般・消化器)教授に就任され、2008年2月には医局が「別館」から「臨床研究棟」へ引越したこともあり、本年2017年は慶應義塾大学医学部開設100年記念と、様々な重要な節目を経験させていただきながら、この度、身に余る大

任を仰せつかりました。病院機能の要である感染制御センターと医療安全対策センターでの経験を活かして教室の円滑な運営に努力して参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2004年より初期臨床研修制度が発足し、10年後の2014年には新専門医制度に向けた日本専門医機構の発足など、当教室の外科学教育システムも少なからず影響を受けているなか、関連施設ならびに刀林会会員の皆様方の多大なるご協力とご支援により、全国でもトップクラスの外科学教室入局者を毎年迎えることができっております。未

来の本学外科学教室を背負って立つ彼らが思う存分能力を発揮できる、診療、教育、研究の環境をさらに充実させていけるようお役に立てればと考えております。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には外科学教室100年という大きな節目を迎えることとなります。慶應義塾大学医学部外科学教室100周年記念事業に向け、100周年記念事業

運営委員会(運営委員長北川雄光教授)が発足いたしました。外科学教室80周年記念事業を大成功裏に導かれた刀林会理事長 北島政樹名誉教授にご指導を賜りながら、私も運営委員の一員として事業に携わらせていただき、刀林会員の皆様とともに気運を高めて参りたいと存じます。さらに、北川雄光教授が日本外科学会定期学術集会の次々期副会頭に選出され、2020年第120回日本外科学会定期学術集会を、北島政樹教授が主催された2000年第100回日本外科学会定期学術集会以来、20年ぶりに当教室が主催する予定です。次世代への新たな100年に向け、素晴らしい2020年を迎えることができますよう、現教室員一同全力で取り組んで参りますので、刀林会会員の皆様におかれましては、引き続きご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

新病院棟建設募金に対する ご寄付の御礼とさらなるご協力をお願い



刀林会新病院棟建設募金委員会 委員長
日野市立病院名誉院長
熊井 浩一郎 (46回)

2017年、慶應義塾大
学医学部は開設100周年
の記念すべき年を迎えてい
ます。医学部創立100
年記念事業の一環として
2014年3月着工した新
病院棟1号館は、2015
年9月I期棟が運用開始さ
れ、現在進行中のII期棟本
体工事も本年4月躯体がほ
ぼ積み上がり、待望の新病
院棟の偉容が姿を現しつづ
めることをご報告申し上げ
ます。

刀林会新病院棟建設募金委
員会は、150周年募金と
新棟募金はその趣旨から合
算して評価させていただ
き、これまで募金に应运
じ、これまでに募金に
おられない役職者(大学
講師以上、関連病院等
長以上)の方々は、三四
会員の目標額である一口
50万円二口のご寄付をお願
い申し上げます。経
済状況が厳しい助教諸君に
対しては慶大外科の一員と
しての意識を持つことの重
要性を鑑み、目標額のハ
ドルを下げて一律25万円
(分割寄付可能)とし、可
能な限り全員参加を目指
すことといたしました。一
方、これまで募金に应运
じ、これまでに募金に
おられない教室OBの方々
につきましては、一口50万
円二口の目標額を基準に

協力をお願い申し上げます。
現役の法人理事長の方々か
ら、すでに現役をリタイ
ヤされた方々まで様々な状
況が考えられますので、そ
れぞれのお立場で可能な範
围でのご協力をお願い申し
上げたく存じます。

表に刀林会各診療科別の
募金状況をお示ししました
が、お願い状を送りし
以降5月11日までに49名
の刀林会員から25,730,000
円のご寄付の申し出をいた
だいております。感謝申し上
げます。

なお、すでにご寄付を賜
りました方々にも募金のお
願いをお送りし大変恐縮に
存じておりますが、新棟募
金に100万円以上ご寄付
いただいた方は、慶應義塾
として信濃町キャンパスに

【表 新病院棟建設募金の刀林会各診療科別の募金状況 2017.5.11現在】

	全員(人)	入金者(人)	募金額(円)	募金率(%)	平均募金額(円)
一般・消化器外科	708	169	169,920,000	24	1,005,444
小児外科	50	18	12,260,000	36	681,111
呼吸器外科	70	21	13,390,000	30	637,619
心臓血管外科	94	15	13,200,000	16	880,000
脳神経外科	130	27	31,480,000	21	1,165,926
刀林会全体	1052	250	240,250,000	24	961,000

第29回日本内視鏡外科学会総会 を終えて



北里大学医学部 教授
渡邊 昌彦 (58回)

2016年12月8日(木)
から10日(土)までの3日
間、パシフィコ横浜におい
て第29回日本内視鏡外科学
会総会を成功裡に開催する
ことが出来ました。私にと
りましては2015年に北
野正剛前理事長より理事長
職を引き継ぎ、今回は理事
長として迎える初めての総
会でもありました。本学会
は1991年に第1回内視
鏡外科研究会として産声を
上げ、わずか26年の間に総
会員数13,000人の学
会へと大きく成長を遂げ、
それにとまない総会の規模
も年々膨らんでまいりまし
た。今回も発表演題数3,
200題、総参加者数6,
300名と歴代最も盛況な
学術集会になりました。是
も偏に学会会員や刀林会員
の皆様のご支援、ご協力の
賜物と心より感謝申し上げ
ます。

特別企画は「Shall we
ES? Endoscopic Surgery
をEcologic Surgeryへ」
ラパロ、開腹、ロボット
何が早くて安くて上手い
か」、「こだわりの手術手
技」出血はしない、させな
い、ひろげない」など、
興味を惹くテーマが功を奏
したように思われました。
シンポジウムでは各領域の
エキスパートに体系的にレ
クチャーしていただき、確
立した知識の整理が容易に
できるように配慮したため
か、地味なセッションの割
に大盛況でした。パネル
ディスカッションは争点に
なる話題を選び、今後の方
向性を明らかにする試みと
してアンサーパッドを用い
た聴衆参加型を採用しまし
た。このパネルは司会者の
先生方にご負担をおかけい
たしましたが、十分な時間
でエキサイティングな討論
を演出することに成功しま
した。ワークショップでは
内視鏡外科に進化をもたら
す革新的技術が次々に発表
されました。大村智先生の
エバーメクソン物語と題し
た特別講演は、全ての聴衆
を感動の渦に巻き込みまし
た。外科学のルーツを弁舌
爽やかに紐解いた歴史家の
磯田道史氏には魅了された
に違いありません。阿川佐

和子さんの軽妙な司会の鼎
談では、北島政樹前々理事
長、北野正剛前理事長と
もに、私もぎつくばらんに
内視鏡外科普及に纏わる苦
労話など語ることが出来
ました。
先人達のためまない技術
革新と科学的根拠に基づい
て、内視鏡外科は広く行わ
れるようになりました。こ
れを支えたのは前人未達の
領域に立ち向かう外科医の
勇気と使命感すなわち『自
我作古』の精神に他なりま
せん。日本の内視鏡外科手
術を世界最高レベルに発展
させて、安全でより良い医
療を提供するため、技術革
新と次世代を育成する教育
の確立が不可欠です。これ
からも本総会のテーマ『自
我作古』を具現化させ、志
を同じくする方々と共に歩
んでいきたいと考えており
ます。
※学会の収支報告書につ
きましては、次号に掲載さ
せていただきます。

第90回日本胃癌学会総会のご紹介



国立がん研究センター
中央病院
副院長・胃外科長
片井 均 (61回)

この度、2018年3月7日(水)～9日(金)の3日間、パシフィコ横浜(横浜みなとみらい)において第90回日本胃癌学会総会を開催いたしましたことになりました。

1962年に日本胃癌学会の前身の胃癌研究会が発足し、第1回の胃癌研究会が同年に開催されています。1997年に日本胃癌学会に発展し、1998年の第70回より日本胃癌学会として開催されています。

発足時の目的の「胃癌に関する研究を行い、その診断ならびに治療の進歩を図る」でした。今日では、これに予防が加わるといいます。



果を發表し。新しい進歩を共有する重要な機会であり、今回の学会のメインテーマは「ストップ胃癌」としました。胃癌研究会発足の原点に立ち返り、会員の皆様が日々研究されている「胃がんで死なないよう」にすることは、どのようにすればよいか? ということを予防から治療まで十分議論できるように、運営したいと考えております。

また、本学会の使命のひとつとして本邦の優れた診断・治療法を積極的に海外に発信する必要があります。海外の医師が討論に参加する状況を同時に提供できるよう努力するつもりです。

実り多い総会となりますようにに最善を尽くす所存でございます。本学会の成功のために、刀林会の諸先生方の格段のご支援・ご高配の程を宜しくお願い申し上げます。

このたび、平成30年11月29日(木)から30日(金)にコクヨホール(品川)にて「第48回日本創傷治療学会」を開催させていただきますこととなりました。

日本創傷治療学会は、創傷治療に関する基礎的・臨床的研究の促進・発展を通じて社会に貢献することを目的とし、慶應義塾大学医学部の外科・耳鼻科が中心となり設立され、「日本創傷治療研究会」として発足した学会です。1972年に第1回の学術集會が開催され、刀林会からは、阿部令彦先生が第4回から第7回まで連続して会長となられ、第19回には掛川暉夫先生、第29回には石引久彌先生が会長を務められております。事務局は発足より平成26年まで40年以上、慶應義塾大学外科学教室内にあり、まさに刀林会が育ててきたといっても過言ではな

第48回日本創傷治療学会のご紹介



帝京大学医学部附属溝口病院
外科・緩和ケアセンター 教授
宮澤 光男 (64回)

い学会であります。

今回の学術集會ではメインテーマを「創傷治療学と他分野とのフュージョン」といたしました。「創傷治療学」は外科学の根幹であり、基礎的な研究、治療法も学会の発足時と比較し、格段の進歩を遂げてまいりました。そこで、今回、外科系の多くの分野がどのように融合し、「創傷治療学」の進歩に関わり発展してきただかを総括し、近未来の「創傷治療学」の方向性を築けるような議論ができればと考えております。

さらに、サブテーマとして「吻合部の創傷治療」を考えています。21世紀の医療は機能温存を追求しており、内視鏡外科によって、従来の開腹下の吻合法とは異なった自動縫合器による吻合が増加してきています。そこで、このテーマを掲げ、変化しつつある体表、

腹腔内、胸腔内、頭頸部における吻合法において、吻合部の創傷治療はどのように変化しているかを、創傷治療の基礎的部分も含め、検討したいと考えています。

現在、本学会は、体表の創傷治療に偏りがちになっており、外科系の会員、参加者が減少傾向にあります。慶應義塾大学外科学教室より発足の会という本学会において、何とか外科の会員数を増加させ、参加者を増加させたいと思っております。本学会の成功には刀林会の諸先生方のご協力が必要不可欠です。何とぞよろしくご高配の程、お願い申し上げます。



「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

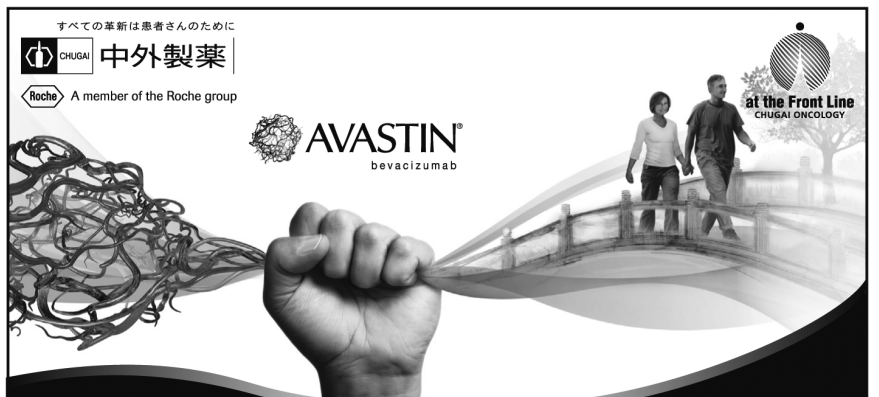
5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤 創薬、処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること) 薬価基準収載

アロキシ 静注 0.75mg Aloxi i.v. injection 0.75mg

アロキシ 点滴静注用 0.75mg Aloxi i.v. infusion bag 0.75mg

パロ/セトロン塩酸塩注射剤 製造販売元 大鵬薬品工業株式会社 販売先 HELSINN スイス

TEL 0120-20-4527 FAX 03-3293-2451 http://www.taiho.co.jp/



すべての革新は患者さんのために

中外製薬 CHUGAI A member of the Roche group

AVASTIN[®] bevacizumab

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

日本標準商品分類番号 874291

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注1)}ヒト化モノクローナル抗体 薬価基準収載

生物由来製品、創薬、処方箋医薬品^{注2)}

アバステン 点滴静注用 100mg/4mL 400mg/16mL

AVASTIN[®] bevacizumab

ベ(シズマブ(遺伝子組換え) 注

注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)

注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること

(資料請求先) 製造販売元 中外製薬株式会社 ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧いただけます。 http://www.chugai-pharm.co.jp

2016年5月作成 2016年11月作成

留学報告



帝京大学医学部呼吸器外科
山内 良兼 (83回)

平成26年6月から平成29年3月までドイツ・ハイデルベルグにありますThoraxklinik Heidelberg (ハイデルベルグ大学付属胸部疾患専門病院)に留学させて頂きました。受け入れていただいたHofmann教授およびDienemann主任教授のご厚意で、最初の1年余りでは手術を中心として臨床に参加させていただき、残りの1年半余りを研究活動に従事していま

ハイデルベルグ市の人口は15万人程度でその多くが大学関係者のため、国際的な雰囲気がありながら都会の喧騒もなく治安も比較的良好く、勉学に集中しやすい良い環境と感じました。臨床では、年間2000例以上の全身麻酔を伴う手術が行われている施設なので全ての手術を時間内に終わらせるために麻酔導入から手術、麻酔覚醒までの行程を速やかに進めていくシステムが確立しており感

銘を受けました。また、日本では経験することの少ない気管・気管支形成を伴う手術に何度も参加する機会に恵まれ、大変貴重な経験をさせて頂きました。一方で、術者の考え方が日本と大きく異なる

ためか、助手の助力をほとんど借りない、いわば術者のsolo-surgeryでの胸腔鏡手術が行われており、チームで行う日本式の手術の良さを実感する機会もありました。研究においては、放射線治療科との共同研究で、悪性胸膜中皮腫の術後放射線療法における問題点からヒントを得て、低線量放射線治療が中皮腫細胞に与える影響に関する基礎的な研究を行いました。またドイツがん研究センターとの共同研究で、肺癌における骨髄

この度、一般・消化器外科教室の北川教授、長谷川准教授にご高配いただき、平成27年4月から2年間、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学、セントポール病院内にあるSin主任教授の研究所で基礎研究の留学を経験させて頂きました。ブリティッシュ・コロンビア大学と慶應義塾大学・外科学教室の交流は20年以上にもわたり、大高先生を初めとした諸先輩方が脈々と築き上げられた環境の中、研究面、金銭面、生活環境と

様々なことで恵まれた留学生活をバンクーバーで過ごすことができました。主な研究は前任で同期の平野先生の論文追加実験と前任で腸班の先輩、鶴田先生が行っていた研究の引き継ぎでありました。この報告を執筆している翌週にそれらを研究成果として、今年の5月23日にアメリカ、ワシントンD.Cで開催されるAmerican Thoracic Societyで発表予定であり、準備に追われているところでもあります。現在は平成29年4月から



足利赤十字病院 外科
森谷 弘乃介 (83回)

留学報告



験することの少ない気管・気管支形成を伴う手術に何度も参加する機会に恵まれ、大変貴重な経験をさせて頂きました。一方で、術者の考え方が日本と大きく異なる

由來免疫抑制細胞の果たす役割について臨床検体を用いた検討を行いました。いずれの研究も途上です。帰国後に機会があればさらに発展させていきたいと考えています。呼吸器外科の諸先生方のご配慮によりこのような留学の機会を与えていただきましたことに感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



▲ Don Sin 教授と



▲コロンビア大氷原での家族写真



受賞報告

平成 28 年度日本心臓財団

研究奨励賞受賞



慶應義塾大学医学部
外科 (心臓血管)

河西 未央 (89回)

この度、2017年3月17日から19日にかけて開催された第81回日本循環器学会集会において、研究テーマ「死体心の脱細胞化三次元細胞骨格を用いた補助人工心臓の創造と心臓再生医療の可能性」で日本心臓財団研究奨励賞を受賞することができました。歴史ある日本心臓財団の研究奨励賞を受賞することができ大変光栄であります。今回の受賞は多くの諸先輩方より御指導いただいた賜物であり、このような研究機会を与えてくださった志水秀行教授、直接御指導いただいた諸先生方には深く感謝申し上げます。私は2013年に外科学(心臓血管)に入局し、臨床面では大動脈疾患、弁膜症疾患、先天性心疾患、低侵襲心臓血管手術など多岐に渡る領域を学び、心臓血管外科の基礎

研究を行なってきました。研究面においては2014年から当科で北原大翔先生(87回)が行なっていた基礎研究を受け継ぎ発展させ続けています。現在重症心不全に対する最終的な治療法は心臓移植ですが、ドナー不足による移植待機期間の延長が深刻な問題となっており、再生医療研究においては、細胞シートを用いた心筋組織の再生方

法が臨床応用されていますが、この再生心筋組織のスケールアップ・高機能化にはシートの積層だけでは困難な再生心筋組織の厚みの増大が不可欠であるという点に注目し、心臓脱細胞化技術を応用することを考えました。本研究のコンセプトとしては脱細胞化技術により生体組織の鋳型を作成し、細胞成熟の足場とすることで心臓の臓器再生の促進を試みるもので、最終的には再生心臓による移植治療の標準化を目指し研究を遂行しております。

最後に本研究に多大なるご協力・ご支援をくださった北川雄光教授(外科学一般・消化器 65回)、八木洋先生(外科学一般・消化器 77回)にこの場を借りて感謝を申し上げます。今回、今回の受賞を励みに、臨床・研究双方で今後より一層精進していく所存でありますので、刀林会の先生方におかれましては、今後とも変わらぬ御指導御鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



平成28年度日本心臓財団助成金
第30回日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成金
贈呈式
2017年3月19日

最後は本研究会に多大なるご協力・ご支援をくださった北川雄光教授(外科学一般・消化器 65回)、八木洋先生(外科学一般・消化器 77回)にこの場を借りて感謝を申し上げます。今回、今回の受賞を励みに、臨床・研究双方で今後より一層精進していく所存でありますので、刀林会の先生方におかれましては、今後とも変わらぬ御指導御鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

開業記

富士見台 すずきクリニック



院長
鈴木 文雄 (62回相当)

昨年三月、二七年間勤務致しました国家公務員共済組合連合会立川病院を退職し、同年五月より国立市富士見台にクリニックを開院致しました。長い間、多くの方々にお世話になった病院ですので、六十歳定年までは何とか勤めようと思っ

少し早い退職とさせていただけました。クリニックはJR南武線谷保駅から北二〇〇mに位置します。さらに北へ行くと中央線国立駅に向かう大学通りになります。大学通り沿いは一橋大学、国立音楽大学、公私立の進学高校がある文教地区で、若さ

「えい、やー」の気合いだけで開院となりました。現在、看護師一名、事務三名という最小ユニットの家庭工業的クリニックとなっています。患者は、私にとつてど真ん中の直球に当たる「胃腸、肛門」、少し内角寄りの「高血圧、糖尿病」、外角寄りの「感冒、花粉症」あたりを期待していました。が、世の中そんなに甘くない、多少真ん中直球はあ

ものの、骨折、耳鳴り、めまいと制球は定まらず、幻覚妄想状態といった暴投も飛んできます。「患者さんの利益」を第一に、困った症例にも対処しています。長時間手術を終えたときの達成感、癌患者が無事五生を迎えたときの喜びはもう味わえませんが、患者さんの笑顔、小さな発見を喜ぶに毎日を通してあります。

刀林会の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。



富士見台すずきクリニック
消化器内科・外科
肛門科

方、少し離れた谷保駅周辺は谷保天満宮が有名なくらいで、非常

「ここが東京?」という感じの町ですが、私には似合っています。時間もなく、勉強も不足

「ここが東京?」という感じの町ですが、私には似合っています。時間もなく、勉強も不足

【資料請求先】
一般社団法人 日本血液製剤機構 ぐすり相談室 〒105-6107 東京都港区浜松町 2-4-1 医療関係者向け製品情報サイト <http://www.jbpo.or.jp/med/di/>

まだないくすりを
創るしごと。

明日は変えられる。
astellas
アステラス製薬
www.astellas.com/jp/

献血 **ヴェノグロブリン IH5%** 静注 5g/100ml・10g/200ml
0.5g/10ml・1g/20ml・2.5g/50ml
Venoglobulin IH5% i.v. 0.5g/10ml・1g/20ml・2.5g/50ml・5g/100ml・10g/200ml (献血) (生物学的製剤基準 ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)
特定生物由来製品 (処方箋医薬品) (注意: 医師等の処方箋により使用すること) (薬価基準収載)

血液分画製剤 (血液凝固阻止剤) (薬価基準収載)
ナイアート 静注用 500単位
Neuart i.v. 500units・1500units (献血) (生物学的製剤基準 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII)
特定生物由来製品 (処方箋医薬品) (注意: 医師等の処方箋により使用すること)

製造販売元 (資料請求先)
一般社団法人
JB 日本血液製剤機構
東京都港区浜松町 2-4-1
VGX-NAT (A5 1/2) 2015年5月作成

近況報告

33〜35 回生

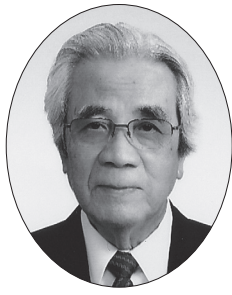


赤坂見附 前田病院
総院長

前田 昭二
(33 回)

◎畏友星野喜久教授…
心臓大動脈貫通銃創を
救命した話

「刀林」の執筆を依頼されたが、私は昭和 29 年卒、33 回生、今は卒寿の digital homeless 老人で近況報告するものも無いので昔話をしたい。
私の同級生は 97 人中 33 人が島田信勝教授主宰の外科に入局したが、当時は今の



廣瀬 泰秀
(34 回)

平成十九年、現役を退き自由の身となった。去る四月二十八日、外科学教室百周年記念事業キックオフミーティングに参加。案内された敬老席は 8 名、出席

ような他大学との交流は無く、むしろ鎖国的であった。手術は the greater the Surgeon, the greater the incision が是とされ、可及的短時間、小出血手術を工夫、修業したが気管内麻酔は発展途上で、古い手術器具を再消毒、再使用する時代であった。

新人仲間で旧制浦和高校出身の星野喜久君とは気が合い行動を共にしていたが、彼は物静かな、類稀な外科センスの持主で将来が予見された。当時、外科の教室体制は未完成、手術分担も同様で、肺外科の赤倉一郎教授(13 回)が食道癌手術も行い、脳外科の工藤達之助教授(14 回)は本業の他、痔疾患手術の名手とされ、膀胱癌根治手術に慶大外科では始めて成功された。時は移り、入局後 13 年の

星野君が足利日赤外科医長時代の或る夕刻、近隣の建築現場から救急入院があった。鉦打銃が暴発して 6 cm 長、0.7 cm 径の弾丸(銃)が 20 才の労働者の心窩部から胸背部へ貫通していた。事故発生後 15 分後には診察開始、患者は左胸痛を訴え意識はあったが血圧 70 mmHg、Hb、浅頸静脈に強い怒張が認められた。2 分後急に意識消失、尿失禁、ショック状態となり、胸腔内大量出血兼心臓タンポナーデを直感した星野君は以後の検査は一切省略し、即、開胸手術を決定した。

居合せた各科の医師が 4 チームとなり、気管内挿管純酸素人工呼吸、大伏在静脈切開、四肢のハートスコープ導線接続、左第五肋間開胸(星野医師一人で施行)の四動作を同時に行い、取敢えず O 型保存血の輸血を開始した。消毒した手術着に着変える余裕はなく、手術野、手術器具は全て無

消毒で開胸すると胸腔内に大量血液の貯留があり、ECG は心室細動を示していた。小児頭大に緊満し、全く拍動のない心嚢を切開して約 500 cc の出血を除く、直接心臓マッサージを行うと心拍動が再開した。受傷から心臓マッサージまで計 22 分であった。更に B 型血液 2600 cc の輸血を加え、血圧回復を待ち、右心室の射入口、大動脈弓部の裂孔を縫合、胸腔内ドレーン挿入、閉胸した。輸血総量は O 型 200 cc、B 型 3400 cc 計 3600 であった。

患者は第一病日昼頃より意識清明となり、幸い創感染、敗血症などは起らず略々順調に経過し、75 日で退院した。一年半後の検査で大動脈右心室瘻と大動脈主肺動脈を認め、済生会宇都宮病院の竹内成之医師(39 回)に根治手術を受け

この症例は星野君に閃いた直観的判断から医学常識に背き、救命時の時間浪費に繋がる術前検査は全て省略し、日頃の訓練とチームワークをフル稼働して極限の状況下に未経験の大手術を成功した貴重な例である。

本症例は臨床外科 26:88 P1261-64 1971 に詳しく報告されており、「考案」の中で星野君は「手術開始が 1 ないし 2 分遅れても救命し得なかつた」と述懐している。その後、信濃町の母校に戻り臨床、研究に活躍中、昭和 47 年 6 月 2 日、慶大外科星野喜久講師は不慮の事故により 43 才で急逝され、過去の業績から二階級特進



の外科教授を授与された。現在、手術は主として内視鏡下に行われる時代となったが何事にも長所があれば短所もある。内視鏡下手術は患者にとつては大きなメリットであるが高額なデバイス器具は激増、医療費は増加一途となり「医療費は増加一途となり」「医療費は増加一途となり」の声を聞えてくる。歴史に if は無いと云われるが、星野喜久教授がもし、実現していたら現代外科の医療に対し彼ほどいう発想の対応をしたかどうか、高令者の一人となつた今は何に熱中しているだろうか等と愚考している。星野君の霊安らかなれと祈りつつ擲筆する。

その後、信濃町の母校に戻り臨床、研究に活躍中、昭和 47 年 6 月 2 日、慶大外科星野喜久講師は不慮の事故により 43 才で急逝され、過去の業績から二階級特進



宇都宮 利善
(34 回)

編集委員より連絡があり、何も今更この老骨にと迷いましたが敢てペンをとりました。十数年前に腸閉塞の手術後数年療養生活を送りまし

たがその後八千代リハビリテーション病院で週に一日診療の手伝いをしていました。外来では維持期症例の経過観察など、病棟では回復期症例の褥瘡治療が主です。以前は褥瘡が重度の例が多く見られましたが最近ほとんどどの例が軽度で急性期リハビリテーションの進歩が伺えます。

私も最近体のあちこちにガタがきて患者としてお世話になることが多くなりました。運動としてはウォーキングのみですが、しばらくはこの状態を続けようと思っています。



村山 博良
(35 回)

35 回生の村山です。本年 6 月 6 日で 86 歳になりました。「食道班」でお世話になり浜松日赤を最後に帰高し、「村山外科」を昭和 42

年 6 月から平成 21 年 6 月まで開設、現在は長男良彦(68 回相当)が「万々クリニック」として開業しております。その間、「刀林」の皆様には格別のご指導をいただきました。父子共厚く御礼申し上げます。私は現在、高知県及び市医師会の「顧問」として医師会活動に携わっております。

日本医師会では、塾の先生方に随分お世話になりました。

第 32 回日本小児外科学会秋季シンポジウム

開催日 平成 28 年 10 月 29 日

開催場所 ソニックシティ

主催者代表 さいたま市立病院 小児外科 中野美和子

運営委員長 静岡県立こども病院 小児外科 漆原直人

参加証数 秋季シンポ 53 名、秋季シンポ+PSJM 299 名

参加者合計 352 名

〈収入の部〉		
科目	(単位:円)	備考
企業展示	1,458,000	7社
広告費	303,400	6社
企業寄付金	434,000	4社
参加費(秋季シンポのみ)	403,000	5000~10000円X53名(抄録集なし9000円X7名)
参加費(秋季シンポ+PSJM)	1,775,500	8000円~15000円X299名÷2
懇親会費	123,000	2,000円×123名÷2
秋季シンポジウム開催支援金	1,200,000	小児外科学会より
ワックスマン財団(慶応大学寄附)	1,170,000	慶応義塾大学寄附金
コンベンション開催助成金(さいたま市)	217,000	さいたま市より
利子	15	
計	7,083,915	

〈支出の部〉		
科目	(単位:円)	備考
学会事務局運営	260,200	会議室使用料、会長印、事務人件費
印刷製本費	744,137	ポスター・チラシ、抄録集、ホームページ
会場費	858,890	ソニックシティ
学会運営費	185,897	当日運営人件費、製作費など
機材費	1,426,752	映像機材、展示・看板
通信費	100,587	宛先タグシール、切手など
消耗品費	20,353	封筒、インク、マジックなど
飲食費	1,244,581	会長小宴、懇親会、会議弁当
謝礼・記念品	335,310	座長記念品、講師謝礼など
交通費	3,200	駐車場代
宿泊費	702,064	招待・スタッフ宿泊
寄附	1,200,000	小児外科学会へ
振込手数料	1,944	
計	7,083,915	

〈収支合計〉 0円

刀林会員のご協力に深謝いたします。

私の著書

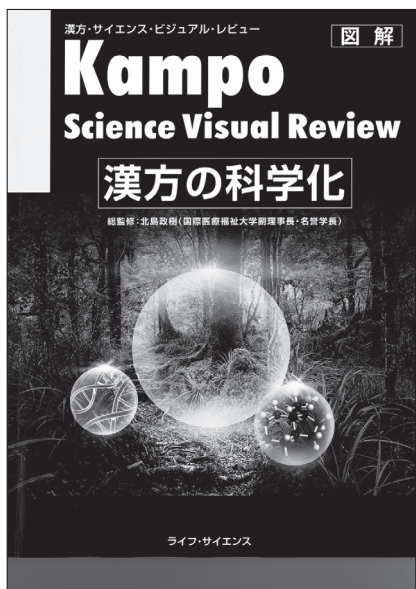
「漢方の科学化」総監修



国際医療福祉大学
副理事長・名誉学長
慶應義塾大学 名誉教授
北島 政樹 (45回)

近年、漢方薬に関する基礎的・臨床的研究が推進され、本学の医学部漢方医学センターを含め、多くの大学・研究センターよりその成果が海外の学会やメジャーな雑誌に発表されている。特に ASCO や ROMEI のガイドラインや Surgery などでも掲載されている。

これは経験的医学であった漢方に対して多くの EBM が集積された結果である。近年「国民の健康と医療を



私の著書

あのね、かなちゃんに聞いてほしいことがあるの

〜緩和ケアが音楽を奏でるとき〜



埼玉医科大学総合医療センター
呼吸器外科・緩和ケア推進室
儀賀 理暁 (72回)

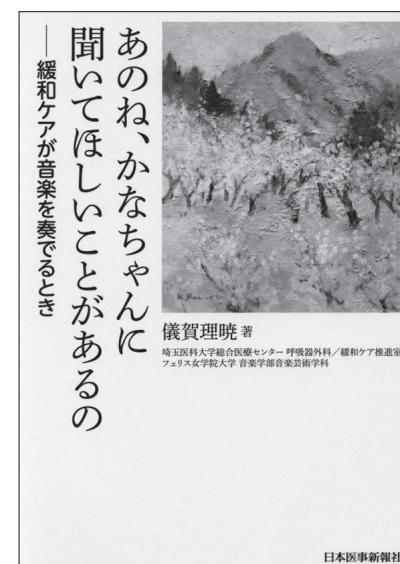
北里記念図書館の二階に、福澤先生の「贈医」という漢詩が掲げられています。ご存知の通り、この詩は「あらゆる手段を尽くしてこそはじめてそこに医療の真諦が生まれる」としめくられますが、「あらゆる手段を尽くした医療の真諦」というお言葉で、先生は医師に何を届けようとしたのでしよう。今風に言えば、「医師よ、プロフェッショナルであれ」というイメージでしょうか。

Profession の語源は、Profess (信仰を告白する) という宗教的な言葉です。中世ヨーロッパの大学は一般に神学・法学・医学の三つの学部から成り、当時プロフェッションが意味するところは、聖職者・弁護士・医師に限られていました。医師、特に私たち外科医の生業は、それ以外の者が行えば傷害罪となる行為です。それが赦されるのは、私たちがプロフェッション

として認められているが故に他なりません。

手術をはじめとする侵襲的、積極的治療をもって病を治癒せしめることの価値を極めつつもその限界を認め、しかしあきらめることなく、医療の言葉では語り切れない人の生きざまに思いを馳せ、病とともに喪失したその人自身の再構築にそつと手を添え、人の「生きる」を支えること。それがこそ「あらゆる手段を尽くした医療の真諦」、先生が私たちに求めたプロフェッショナルとしての在りです。

「今日も、生涯の一日なり」



診療体系グループ紹介

小児外科



慶應義塾大学医学部
外科 (小児外科)
山田 洋平 (81回)

小児外科は、こどもの一般・消化器ならびに呼吸器の手術を行なう診療科で、先天性疾患、小児がんから小児の臓器移植まで幅広い疾患を扱います。小児外科外来はチーム医療が円滑に行なわれるように小児科外来と同じフロアである2号館の2階にあり、上記のような疾患を幅広く扱っています。月曜日から土曜日までの午前中は一般小児科疾患を主に取り扱い、水曜日と木曜日午後が移植専門の外来を開設しています。

直腸肛門奇形、ヒルシュスプリング病の治療、研究には伝統的に定評があり、更に先天性食道閉鎖症や小児呼吸器外科の症例も多く、これらの疾患に対して再生医療の臨床研究の準備を行っております。

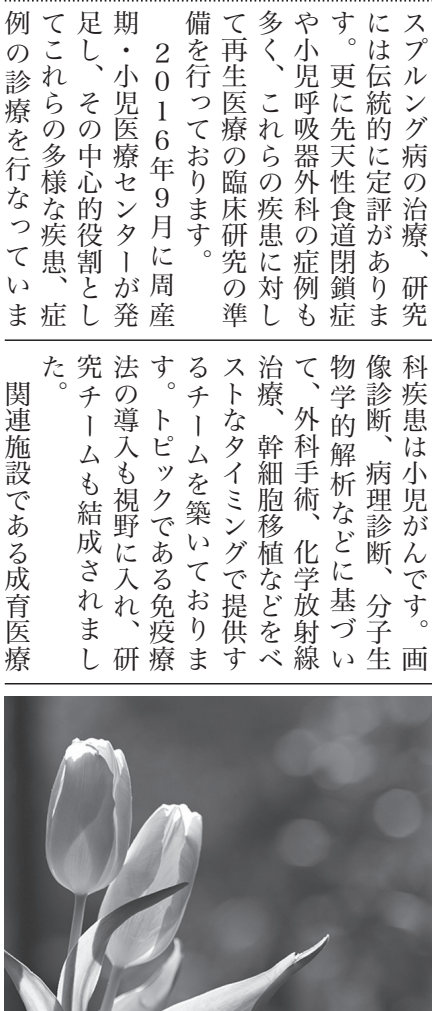
2016年9月に周産期・小児医療センターが発足し、その中心的役割としてこれらの多様な疾患、症例の診療を行なっています。

特に周産期領域の結びつきが強くなった結果、出生前診断された胎児異常に対する外科治療症例が増加傾向にあります。

小児外科は一般消化器外科移植班と共に、生体及び脳死肝移植に従事しております。成績も良好で、長期生着向上を目指した臨床研究を行っております。難病である腸管不全に関しても、栄養管理から小腸移植に至るまで一貫治療を提供しており、小児移植のセンター機能を担っています。

もう一つの重要な小児外科疾患は小児がんです。画像診断、病理診断、分子生物学的解析などに基づいて、外科手術、化学放射線治療、幹細胞移植などをベストなタイミングで提供するチームを築いております。トピックである免疫療法への導入も視野に入れ、研究チームも結成されました。

関連施設である成育医療センター、都立小児医療センター、杏林大学、東海大学として国際医療福祉大学と連携し、お互いに情報交換を盛んに行っております。さらには国際化を視野に、途上国への外科医派遣プロジェクトにも関わっております。少子化という先進国の荒波に抗い、小さな命を救うべくミッションをエネルギー源として日々臨床および研究に励んでおります。



なでしこ外科医

仕事を通じて学んだこと



東京理科大学副学長
向井 千秋 (56回)

子供の頃の私の夢は、医師になることでした。装具をつけた不自由な足で歩いている弟の姿を見て、病気で苦しんでいる人を助けたらいいなと思ったからです。10歳の時でした。勉強し、幸運なことに医師となりました。病気が治って退院する患者さんをお送りするとき、本心にうれしかったです。でも、退院できず病院で人生の最後を迎える人たちもいました。病院で生まれ、外の世界を知らずに、命を閉じる子供たちもいました。自分と同世代の人が亡くなるのを目の当たりにして、運命の理不尽さに心の底から悩んだものです。人生の道のりは楽しいことばかりではありません。つらく苦しく、どちらに進めばいいか、選択ができず悩むこともあります。そんな時、道の選択に悩むことすら許されず、この世を去って行った人たちがいること

を思い出します。夢を追うことができるのなら、失敗を恐れずに、新たな世界に挑戦し続けるべきです。切磋琢磨し、人生を歩んでいくことの有難さを、患者さんから学びました。32歳の時、日本人宇宙飛行士の募集がありました。科学技術が、地球上の仕事で宇宙空間にまで広がっている、そんな時代に生きていることに感激しました。宇宙から故郷の地球を見たい。自然界の壮大な景色を見ることが、視野を広げ、考え方を深めていきたいと思いました。重力のない世界での科学研究にも興味を持ちました。1983年当時は男女雇用機会均等法制定の前で、女性がなれる仕事も限られていました。「女性として日本人宇宙飛行士の第一期生になることに戸惑いはなかったのですか？」という質問をよく受けます。戸惑いは全く

ありませんでした。医師として働き始めた頃に「女性だから・男性だから、女性のくせに・男性のくせに」という考え方をしなくなっていたからです。女性である前に、一人の人間として患者さんに向き合いたいと思ったからです。そして、性別、国籍、宗教などのsubgroupで自分の可能性を限定するべきではないと思うからです。NASAで宇宙飛行の訓練を始めたとき、そして、アメリカ人男性の宇宙飛行士達と宇宙飛行に臨んだ時、任務を遂行するために自分に何ができるのかと考えて、戸惑うことなく仕事をすることができました。

このたびは、刀林会新聞の新企画に寄稿させていただき、ありがとうございます。この経験から学んだことを、後輩の皆様にお伝えしたいと思っています。私は、一九九五年に東北大学を卒業し、同年四月に慶應義塾大学外科学教室に入室しました。当時は日本の外科医が多く、かつ、女性外科医は非常に少ない時代でした。周りの皆様は、珍しい女性外科医に戸惑いながらも、温かく応援してくださっていました。

男性外科医の減少、女性外科医の増加、外科の人材の人数と構成に変化が現れ始めた二〇〇七年、日本外科学会では女性外科医支援委員会を設立しました(初代委員長は寺本龍生先生)。私もその委員会の委員に任命されました。女性外科医をとりまく問題を抽出

し、女性外科医の就労継続・キャリアアップを継続的に支援する組織を設立することがmissionでした。二〇〇九年にはその当時の委員会のメンバーで日本女性外科医会を設立し、以後私も世話人としております(日本女性外科医会の公式ホームページをご高覧いただけましたら幸いです。現在会員数は二六三名です)。この活動に取り組むまで、女性であることに不自由を感じていなかった私でしたが、情報収集や国内外の女性外科医との交流を通じて、さまざまな困難を経験している女性外科医がいることを知りました。この十年の間、外科領域の女性外科医をとりまく問題やさまざまな知見が学会・論文などで発信され続けているうちに、世の中が変わってきました。時代はこのように変化していくものなのですね。今や、女性の就労継続

を支援することが、どの職場にとつても重要な要素となりました。女性をとりまく環境は大きく変わりましたが、変わりゆく時代の中で、女性が増えた職場で多忙な組織を維持する柔軟な工夫がこれからはますます重要になってくることと拝察いたします。私達の年代が定年退職になる頃以降、外科医はさらに減少していくことでしょうか。そのような未来あるいは近い将来においては、妊娠・出産・子育てあるいは介護などで就労形態が変化した同僚を、単一施設のみで支えあうだけでなく、複数の施設間での人材交流などで助け合っていく必要になってくるのではないかと推察しております。緊急手術を担える施設・医師の確保にも、今はいないシステムが将来必要になるかもしれません。

変わりがゆく環境の中で、万事に完璧な時代も組織も無いと思います。大切なことは、問題点から理想を見出し、その理想に向けて工夫を継続しながら、より質の高い外科診療を目指し、新しい真実を見出し、若手がなるべく早く一人前になれるように育成し、各人ができることを高めあいながらお互いを支えあい、最善を尽くしながらよりよいことを目指し続けることだと思います。多忙な中でも、お互いがお互いの喜びのような存在となり、各人の長所とともに生きがいとpassionと夢を尊重しあいつながら、それぞれの生きがいながら、それぞれの生きがいながら、幸せを満喫して生きられるような職場を、チームワークが得意な私達外科医で、one for all, all for oneの

なでしこ外科医



川崎市立川崎病院外科
乳腺外科部長
萬谷 京子 (74回相当)

を支援することが、どの職場にとつても重要な要素となりました。女性をとりまく環境は大きく変わりましたが、変わりゆく時代の中で、女性が増えた職場で多忙な組織を維持する柔軟な工夫がこれからはますます重要になってくることと拝察いたします。私達の年代が定年退職になる頃以降、外科医はさらに減少していくことでしょうか。そのような未来あるいは近い将来においては、妊娠・出産・子育てあるいは介護などで就労形態が変化した同僚を、単一施設のみで支えあうだけでなく、複数の施設間での人材交流などで助け合っていく必要になってくるのではないかと推察しております。緊急手術を担える施設・医師の確保にも、今はいないシステムが将来必要になるかもしれません。

人生はご縁でできています。経験は宝です。自分の経験の中に、必ず未来につながる学びがあります。適切なタイミングに必要な経験をすることを感じながら、誠実に最善を尽くして生きていけばよいのだということは、卒後十年目くらいに気づきました。その後の十余年でも、それで間違っていないと感じます。ご縁を大切に、今なすべきことを大切にして生きていけば、心配ないと思います。未来が無限大の後輩の皆様、どうぞ素晴らしい人生を!



カルバペネム系抗生物質製剤 処方せん医薬品 薬価基準収載

フィニバックス 点滴静注用0.25g・0.5g
キット点滴静注用0.25g

FINIBAX 注1) 注2) 注3) 注4) 注5) 注6) 注7) 注8) 注9) 注10) 注11) 注12) 注13) 注14) 注15) 注16) 注17) 注18) 注19) 注20) 注21) 注22) 注23) 注24) 注25) 注26) 注27) 注28) 注29) 注30) 注31) 注32) 注33) 注34) 注35) 注36) 注37) 注38) 注39) 注40) 注41) 注42) 注43) 注44) 注45) 注46) 注47) 注48) 注49) 注50) 注51) 注52) 注53) 注54) 注55) 注56) 注57) 注58) 注59) 注60) 注61) 注62) 注63) 注64) 注65) 注66) 注67) 注68) 注69) 注70) 注71) 注72) 注73) 注74) 注75) 注76) 注77) 注78) 注79) 注80) 注81) 注82) 注83) 注84) 注85) 注86) 注87) 注88) 注89) 注90) 注91) 注92) 注93) 注94) 注95) 注96) 注97) 注98) 注99) 注100)

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

製造販売元 【資料請求先】
シオノギ製薬
大阪市中央区道修町 3-1-8
医薬情報センター ☎0120-956-734

FBX-KO-102A(D1)-R 審 C9477 ●登録商標 2014年1月作成 A52

追悼

故豊田元先生 (49回) を偲んで

伊藤病院学術顧問
帝京大学医学部外科名誉教授

高見 博 (49回)

衝撃的な電話をご令室様
 朋子さまよりいただき、目
の前の真つ暗になりました。
 豊田元君は平成25年
 (2013年) 7月30日、
 心房細動からくる右脳の広
 範な脳梗塞で緊急搬送さ
 れ、それから長い闘病生活
 が始まりました。リハビリ
 病院、大学病院、老健施設
 などで治療、介護を受け、
 私は月に1、2回お見舞い
 に行きましたが、約3年6
 か月後の平成29年2月6日
 に72歳の人生の幕を閉じま
 した。

豊田元君は昭和19年3月
 12日生まれで、都立小石川
 高校から慶應医学部に入学
 しました。



▲お孫さんを肩車している豊田元君 (2011年)

しました。長身で筋肉質の
 長い手足を生かし、あの過
 酷なボート部で活躍する一
 方、幼少時から剣道の思
 いは強く、医学部に剣道部
 を立ち上げました。まさに
 「スーパーアスリート」で
 す。二人でよくドライブに
 行きました。盛岡、上高地
 など思い出は沢山ありま
 す。外科医になってからも
 よくもこんななと思うほど
 お付き合いしました。私の
 結婚式では彼に司会をお願
 いしました。また、彼が朋
 子さまと婚約するときには
 まず二人で我が家に来て、
 初めてのお披露目をささ
 げています。家族ぐるみの

お付き合いでした。彼は慶
 應での研修を終えた後、北
 里研究所病院に籍を置きま
 した。彼の交際範囲の広さ
 は突出しており、いつもあ
 の性格から出るやさしさで
 超人気者でした。私との付
 き合いでは旅行がゴルフに
 代わりよく泊りがけで行き
 ました。もつと、最新の道
 具を使えばシングルプレー
 ヤーになれるよ、といつて
 もゴルフの神髄を極めるま
 でこの古い道具でよいと。
 まさに、ここにアスリート
 魂をみしました。60歳の時、
 白金クリニックを開院しま
 した。私の家からも近くよ
 く遊びに行きましたが、働
 く姿を見ていると彼は実地
 医家の画になつていと思
 いました。

2月9日の葬儀は上野寛
 永寺輪王殿で行われました
 が、豊田君を偲ぶ方々であ
 の広い式場は埋め尽くされ
 ました。今は、自宅近くの
 晋門院で父母祖父母様と一
 緒に眠っております。書い
 ているうちにだんだん悲し
 くなつてきましたので、泪
 する前に筆をおきます。親
 友がまた一人消えていく。

追悼

故浅越辰夫先生 (51回) を偲んで

花谷クリニック 院長

花谷 勇治 (54回)

元旦の夜、「本日、午後
 4時過ぎに浅越先生が膵臓
 癌のため亡くなった」とい
 う知らせが入った。昨年8
 月に体調を崩され、検査を
 受けたところ、肝転移を伴
 うステージ4の膵臓癌であ
 ることが判明したという。
 長年のお付き合いであつた
 が、何も聞かされておらず、
 突然の訃報に驚かされた。
 ご自身が外科医であり、手
 術による根治が望めない状
 態で病気が見つかったこと
 に対し、さぞ後悔されたこ
 とであろう。化学療法を試
 みた効果がなく、副作用
 が強かったため断念し、自
 宅に戻り、鎮痛薬とステロ
 イドの投与で最期を迎えた
 という。食事が摂れず衰弱
 が進み、痛みがひどかった
 ようだ。

1月8日、茅ヶ崎で行わ
 れた家族葬にお邪魔した。
 奥様が、参列した一人一人
 と、丁寧に話をされていた。
 闘病の様子が克明に記
 録され、ファイルに収めら
 れていた。その中で、残さ
 れた奥様への感謝の言葉
 が、何度も何度も、くりか
 えし綴られていたのが印象
 的だった。「ゆきこさんあ
 りがとう、感謝」と。
 浅越先生の勤務医人生は
 波乱万丈であつたと言えよ
 う。慶應の研修を終え、平
 塚市民病院に勤め、茅ヶ崎
 に自宅を構えた矢先、慶應
 の外科学教室の事情で板橋
 の帝京大学第一外科に移る
 ことを余儀なくさせられ
 た。茅ヶ崎から板橋まで通
 うことは大きな負担であつ
 たと思われる。

平成12年、娘さんが順天
 堂大学の医学部に入学し、
 ホッとしていた矢先、帝京
 大学の経営が逼迫したとい
 う事情から退職を迫られ
 た。慶應のように潤沢な関
 連病院がある訳ではなく、
 退職後の勤務先を探すのに
 難渋し、悩んでおられた姿
 が目に焼き付いている。最
 終的には、軟式庭球部の先
 輩の伝手で、茨城西南医療
 センター病院に健診セン
 ター長として赴任された。
 平成19年4月からは、古
 巣である平塚市民病院に戻
 り、乳腺外科医として復活
 され、定年を迎えられた。
 勤務医としての人生も一段

落し、お子さん達も独立さ
 れ、これから第二の人生を
 始めようという矢先に病魔
 に侵され、さぞや無念で
 あつたことだろう。とくに、
 苦勞を共にされた奥様への
 思い入れは格別であつたと
 思われる。

浅越先生は古武士の風格
 を漂わせる人であり、初対
 面では取っ付き難い印象を
 受けたが、慣れ親しむと、
 心に沁みるような笑顔を見
 せてくれた。まじめで、穏
 やかで、もの静かで、16年
 間付き合い合った間に怒った顔
 を見たことがなかった。患
 者さんの話に良く耳を傾
 け、自分に厳しく、他人に
 は優しい先生であつた。司
 馬遼太郎の本を愛読され、
 地道にコツコツと乳癌の治
 療成績の統計処理に取り組
 んでいた姿が印象に残って
 いる。

平塚に移られたあと、「酒
 を酌み交わそう」という約
 束を果たせぬまま、お別れ
 することになり、残念でな
 らない。長いこと、本当に
 お疲れ様でした。心よりご
 冥福をお祈りします。

